

小児整形外科疾患の看護

座長：高 村 和 幸

関東地区, 中京地区, 関西地区, 九州の 4 つの病院から小児整形外科疾患の看護の発表があった。

「創外固定器装着予定患者に対するプレパレーションの実態調査」では, 大阪府立母子保健総合医療センターでの創外固定器装着予定患者に対する術前の冊子による治療に関するスケジュール・延長・シャワー浴の説明と術後の, DVD での説明を用いたプレパレーションの検討がなされていた。冊子を見た時期, DVD を見たときの看護師の説明の有無や延長手術経験の有無が手術後の延長やシャワー浴に対する理解に大きく影響を及ぼしていることがわかり, 今後のプレパレーションの方法や時期の適正化が必要であることが示唆された。

「先天性股関節脱臼 牽引治療に対する家族用パンフレットの有効性」が, あいち小児保健医療総合センターから発表された。牽引治療が必要な先天性股関節脱臼の患者に教育入院後にホームトラクションを行うために, 包帯の巻き方や皮膚の観察などの手技や知識, ホームトラクションの器具や抑制ジャケットの取り扱いをパンフレットに記載し, 説明している。退院後もパンフレットを貸し出すことにより知識や技術の確認が容易になり, 退院後の不安を取り除くことが可能になり, その有効性が確認された。

「側弯症の装具が母子の心理に及ぼす影響」は聖隷佐倉病院での側弯症の装具治療を行っている患者家族を対象に調査された。装具治療に対する患児と母親との間に心理的変化の相違があることが確認され, 装具を装着する患児だけではなく母親も心理的負担が軽減されるため, 看護支援の必要性があると考えられた。

「Orthofix 創外固定器を装着した患児のオープンシャワー法」では, 福岡市立こども病院・感染症センターでの創外固定器 screw 刺入部の創処置の方法が検討された。従来の閉鎖式消毒法に比較しオープンシャワー法では患児の負担が軽減し, 感染の早期発見も可能であることから, 優れた方法であると考えられた。

4 題の発表は, 養育者の十分な理解と協力が必要で長期間わたって行われる治療方法であり, 小児整形外科疾患の大きな特徴を持つ疾患に対するものであった。いろいろな側面から治療に対する理解や技術を患児と養育者に的確に持っていただくために, 看護分野からのサポートが極めて重要であり, 今後ますますの協力と支援が必要になると考えられる。